The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜書評＞Anthony Elliott, Algorithmic Intimacy : The Digital Revolution in Personal Relationship, Polity, 2023.
Author(s)	秋丸, 竜広
Citation	年報人間科学. 2025, 46, p. 33-37
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100517
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈書評〉

Anthony Elliott, *Algorithmic Intimacy: The Digital Revolution in Personal Relationship*, Polity, 2023.

秋丸　竜広

1．本書の背景

本書の著者Anthony Elliottは，現代社会における「自己 self」や「生 life」の変容について重要な考察をし続けてきた．近年は，とりわけ機械学習，人工知能（以下，「AI」と記す）や予測アルゴリズムを中心としたデジタル革命の観点からのアプローチを重視している（Elliott, 2019=2022; 2021; 2024）．彼は，AIに対する悲観主義と楽観主義という二元的な思考を批判的に捉えており，本書もそのような立場から，予測アルゴリズムによって方向づけられた生活と親密性について公正に理解することが目指されている．

本書の目的は，AIが遍在する今日の社会において，予測アルゴリズムが，親密性や愛，セクシュアリティ，エロティシズムにどのような影響・変容をもたらすのかについて，社会理論の文脈から明らかにすることである．著者も指摘するように，今日の親密性は，デジタル化され，アルゴリズム化され，そして何よりも自動化されたコンピューターコードとして生まれ変わり，人と人との間に新たなダイナミズムをもたらすというよりも，予測不可能性，不確実性，両義性を排除するようなものになっている．このような関心を検討する上で，著者は，AI のような高度な計算プロセスによって，個人の行動が秩序づけられ，親密な関係をモデル化する新たな方法が生み出されることを指す概念として「アルゴリズム的親密性 Algorithmic Intimacy」を打ち出す．本書は，この「アルゴリズム的親密性」とその変容をめぐる複雑な状況やプロセスを理解するための説明図式を提示し，さらなる学術的研究の発展のきっかけとなる草分け的文献である．

本稿は，AIがもたらす親密性の変容を検討した本書の概要を示したのち（第２節），その社会学的意義を示すとともに，今後，批判的検討を要すると思われる論点をひとつ提示する（第３節）．

2．本書の概要

本書は全6章で構成されており，「アルゴリズム的親密性」の概要やそれが生じる社会的文脈について論じた第1章と第2章，そして，「アルゴリズム的親密性」が現れる具体的な場や技術，その諸相について論じた第3章から第5章，最後に，結論として「アルゴリズム的親密性」の発展を理解するための認知的

経験に基づく重要な3類型を示す第6章と続いている．

第1章「アルゴリズム的親密性とは何か？（What is Algorithmic Intimacy?）」では，まず，本稿冒頭で示したような著者の予測アルゴリズムと親密性をめぐる問題関心が提示されている．予測アルゴリズムは，個人の主体としての能力を侵害することで，多様な社会関係に大きな影響をもたらす．そして，本書の鍵となる概念「アルゴリズム的親密性」が，親密な関係性やアイデンティティ，個人の生活をめぐる経験や意味を再構築するものとして位置付けられる．著者は，このようなAIが遍在する現代の社会状況においても，アルゴリズムがもたらす個人の生活，とりわけ親密性に対する広範な影響が、体系的な学術研究の対象になっていない状況を指摘している．この指摘を踏まえ，本書は，このアルゴリズム的親密性やその変容について，体系的かつ社会学的な方法によって，その発展・深化・帰結を縁取る社会的条件を探求しよう試みるものとされる．

それに続けて，第1章の後半では，「アルゴリズム的親密性」の4つの特徴とそれが展開される親密性の3つの領野について論じられている．「アルゴリズム的親密性」の第一の特徴は，人間の一体感に関する既存の文化理解や社会規範に反して，予測やコピー，反復に依拠していることであり，また，第二の特徴は，予測アルゴリズムのプログラムや，その社会的な力の大部分が，隠されていて，不明瞭であることだ．そして，第三の特徴として，チャットボットやバーチャル・パーソナル・アシスタントのような，丁寧さを要求しない会話の形態が見られることや，その反動としてのアルゴリズムによる抑制効果を有するようになっていること，最後に，第四の特徴として，感情的な結びつきが多元化し，可能な限りで複数の関係に同時に参加することが可能になっていることを挙げている．このような特徴を踏まえ，予測アルゴリズムが与える親密性の変化について，すべて扱うことは不可能としつつも，リレーションシップ・テック（第3章），セラピー・テック（第4章），フレンドシップ・テック（第５章）の3つの基本的なタイプの社会技術的な分野に注目するという方針を示す．

続く第2章「変容する一体感（Togetherness Transformed）」では，従来の親密性とデジタルな親密性を別個のものとして扱うアプローチを批判し，予測アルゴリズムに関する経験は，大きな社会的・文化的文脈から理解すべきだという立場から，デジタル技術がもたらす親密性について，絆 human bonds や一体感 togetherness という術語を用いて論じている．その際，近代の都市の中に見られる高度な非人格的な形態の社交や親密な関係性，そこでの相互作用に関するGeorge Simmelの考察や，デジタル化以前の社会に見られた多様な一体感をカタログ化したZygmunt Baumanの考えを参照している．すなわち，著者のElliottは，今日の「アルゴリズム的親密性」が，産業革命以降の大都市や後期近代の社会で既に確認されていた親密性をめぐる社会学的考察の文脈から理解可能であり，それと連続的なものだと考えている．また，このような著者の立場から，デジタル技術が私たちの親密な生活を飲み込み，結果的に崩壊をもたらすと見なすSherry Turkleらの文化的悲観主義的な議論を懐疑的に扱うべきだと指摘している．

第3章以降は，「アルゴリズム的親密性」の影響を受ける親密性の諸領域が検討される．まず第3章「リレーションシップ・テック（Relationship Tech）」では，計量化された性生活とアルゴリズムによるデーティングアプリに焦点をあて，これらの技術が新たな性的関係やエロティックな親密性の空間の形成を促

すかを論じている．ここでは，出会いや求愛が20世紀を通じて，徐々に商業的な領域のものへと変容して行ったことを確認し，それを突き詰めた結果として，今日，消費財をオンラインで購入するかのような，スマートフォンで右／左にスワイプすることによって行われるパートナー探しが生じていることを示す．そして，オンラインデーティングを通じてデジタル化されていく自己の様式が，Anthony Giddensのいう再帰的なプロジェクトとしての自己とよく一致していることを指摘する．また，エロティックな親密性をめぐる技術や，数量化に対する人々の盲目的な信頼が，自己や親密性を自分自身で支配したいという願望を，逆説的に反映しているという興味深い考察も展開されている．

第4章「セラピー・テック（Therapy Tech）」では，デジタル化されたセラピーの領域について詳細に説明した上で，それが人々の自己形成プロセスや自己をめぐる経験をどのように変容させているかを検討している．ここでは，デジタル化されたセラピーに関する記述が，自己に対する広範な否定的な結果を見落としていると指摘し，重要な問題として，チャットボットセラピーの肯定的すぎる態度が，人々のネガティブな感情や過去を振り返るための助けにならず，「回復」という概念を否定していることを挙げる．また，アルゴリズムによるセラピーの本質が，自己アイデンティティの効果的な管理やアルゴリズムに依拠した生活実践の再編にあることも論じている．さらにはJürgen Habermasによる公共圏の繁栄と衰退に関する議論を参考に，予測アルゴリズムの台頭による公的生活と私的生活の関係の変容についても検討している．

そして，第5章「フレンドシップ・テック（Friendship Tech）」においては，まず前半で，アルゴリズムに基づく友情に関する4つの観点が打ち出される．すなわち，友情のデジタル化と自動化，友情におけるデジタル技術の革新と商業市場，友情に関わるデジタル技術への関与の深さと利用者のアクセスパターン，アルゴリズムが持つ友情を形成・維持させる能力であり，順を追って検討が加えられていく．そして，デジタル化した友情が可塑性，つながり，推薦に特徴づけられるものだと指摘している．後半では，人間とバーチャルエージェントとのパラソーシャルな関係に焦点を当て，この関係がどのようなものなのか，対人間相手の友情にどのような影響をもたらすか検討している．

これらの検討を踏まえ，最後の第6章では，Habermasの一般的認知戦略の枠組みを参考に，「アルゴリズム的親密性」の展開を理解する上で重要な，人間と機械の相互作用をめぐる認知的経験の3類型を提起する．すなわち，規則や規制，プロセスに焦点を当てる「規約型アルゴリズム的親密性 Conventional Algorithmic Intimacy」，コミュニティ，合意，連帯に重点を置く「凝集型アルゴリズム的親密性 Cohesive Algorithmic Intimacy」，想像力，発明，コミュニケーションを重視する「個別型アルゴリズム的親密性 Individualized Algorithmic Intimacy」であり，今日の大半の人間と機械の相互作用が，これらいずれかの類型，あるいはその組み合わせによって分類可能だと主張する．

3．本書の意義と論点

本書の意義は多岐に渡るが，一つには，デジタル化およびアルゴリズム化された社会において，技術的な問題としてだけでなく，社会文化的な文脈の中で，私たちがいかに親密性にアプローチしていくべきか

を示している点が挙げられよう．著者は，現在，公的な場やメディアでの議論が，デジタル化された親密性の変容の要因を，デジタル技術の変革力そのものにのみ帰属させる論調になっていることを批判し，具体的な社会的・文化的・政治的・経済的文脈を考慮して検討すべきという見解を示している．本書は，このような指針に則って今日の親密性を検討したものとして読むことができる．また，デジタル化・アルゴリズム化された親密性を理解する図式として，デジタル化以前のものとの比較以外の道，すなわち，今日の親密性のあり方を，近代以降の親密性のあり方との連続性の中で理解する見方を提起した点でも大きな価値があると言える．そして，アルゴリズム的親密性に関する諸特徴やその類型，それが現れる領域を提示し，今後の研究の素地を築いた点にも勿論，意義がある．

本稿の最後に，マッチングアプリなどで展開されているエロティックまたはロマンティックな親密性をめぐる文脈における行為主体性をめぐる問題を取り上げ，本書に残された課題を提示する．マッチングアプリにおけるAIマッチングやオススメ機能というのは，お見合いと機能的に等価で，対象選択の余地を縮小させ，結果として，意思決定における人々の主体性が予測アルゴリズムによって取って代わられる状況を生じさせる．このとき，私たちが主体性を発揮する余地は残されるのかという問いが生じる．前節で示したように，著者のElliottは，エロティックな親密性をめぐる技術や数量化に対する人々の盲目的な信頼は，翻って，自己や親密性を自らの手で制御したいという願望の表れだと述べており，マッチングアプリにおいてより多くの人とマッチしたり，モテたい対象にモテるように自己を呈示する「自己の商品化」は，そのような願望に基づく実践として理解することができる．しかし，この「自己の商品化」を，選択の環境の構造に絡み取られてしまっていると人々を受動的にみなす研究も存在する（Illouz, 2007; 木谷・河口, 2021）．Elliott（2019=2022）は，デジタル世界における人間をただ受動的な存在として理解する姿勢を批判しており，予測アルゴリズムが台頭する中でも人々のもつ主体性を見出そうと努めている．しかし，彼自身が近著で指摘するように（Elliott, 2024），人々の意思決定は，ますます予測アルゴリズムに託されている現状があり，人々の主体性を拾い上げようとするElliottの本書での分析は精細を欠くものになってきているように見える．アルゴリズム化が進んだ現代社会おいて，従来的な行為主体性と構造という分析軸はどこまで有用なのか，その再検討なしに，人々の行為主体性を救いあげるのは難しいのではないだろうか．

以上の点を勘案しても，本書の持つ意義や価値は損なわれない．予測アルゴリズムが浸潤した今日の親密性や自己，生の特徴やその変容をめぐるプロセスを，具体的な領野から見て取り，理論社会学的に巧みに描き出している．本書は，アルゴリズムと不可分となった現代の親密性をめぐる研究を発展させていくための必読書となるだろう．

文献

[1] Elliott, Anthony, 2019, *The Culture of AI: Everyday Life and the Digital Revolution*, Oxford: Routledge.（＝遠藤英樹・須藤廣・高岡文章・濱野健訳 , 2022,『デジタル革命の社会学――AI がもたらす日常生活のユートピアとディストピア』明石書店.）

[2] ――――, 2021, *Making Sense of AI: Our Algorithmic World*, Cambridge: Polity.

[3] ――――, 2024, *Algorithms of Anxiety: Fear in the Digital Age*, Cambridge: Polity.

[4] Illouz, Eva, 2007, *Cold Intimacies: The Making of Emotional Capitalism*, Cambridge: Polity Press.

[5] 木谷幸広・河口和也 , 2021「マッチングアプリ『9monsters ナインモンスターズ』におけるゲイの身体変容――リアル・スペース『ゲイバー』への影響」『広島修大論集』61(2): 1-17.